

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

6年生に求めること



～自分（たち）で考え判断し行動する～

6年生には、これから1年、「自分」が毎日の活動とチームづくりに対して「自覚と責任」をもち、リードしていくことを求めています。自分がまず手本となる行動をとって見せること。同時に、わからないことがあれば前もって確認しておき、リードできる準備をしておくことの必要性を説いています。そのためには、先を見通す力、まわりをよく見て変化に気づく力、気づきに基づいて必要な行動をとる力、必要なことを自分から報告・連絡・相談できる力などが必要であることを伝えています。今までのように、自分のことだけでは6年生としての役割を果たしていることにはならないし、自分が手本にならない言動をとっていけばなおさらのことです。クラブでの活動はもちろんのこと、学校生活を含めて、まず自分がなすべきことをなしていかなければならないし、まわりの友だちにも目を向けていかなければなりません。学習・生活・練習全般において、まわりの人との関係を大切にしながら、そこでの活動に努力することを求めます。

毎年のことですが、「6年生」とひとくくりに言っても、当然、一人ひとりにちがいがあります。自分の弱さ（課題）との闘い（“自分に勝て”）もそれぞれです。ただ、総じて、どの子もまじめです。言われたこと、決められていることは、ちゃんと守って活動することができます。しかし、直方クラブで常に求めているのは、“自分（たち）で考え判断し行動する”ことです。言われたこと、決められていることを守るだけでは、良いプレーはできません。バスケットは、瞬時の判断とコミュニケーションで、最善のプレーを選択しなければなりません。それはどのスポーツでも同様でしょう。もっと言えば、スポーツだけではないでしょう。

急速に変化する社会。これまでとは違います。IT、AIが普及し、単純作業はほぼ人間の手から離れる、と言われていています。身近な生活場面で言えば、コンビニやスーパー等のレジなどは、ほぼ自動精算に変わってしまいました。いろいろなチケットの購入やさまざまな予約もほとんどネットに変わっています。今のところ、IT、AIがとって代わることのできないものは、「想像力」「発想力」「創造力」と言われ、それが人間に求められていくと言われていています。今の子どもたちが成長して出ていく頃（約10年後）の社会は、もっと変化していることは容易に想像できます。今、おとなが、これまで自身が経験してきたことをもとに、「子どものために…」「子どもに良かれと思って…」と与えることが、本当に子どものためになるのか、ということが問われる時代です。

戦後これまで学校教育で求めてきた力も、スポーツの世界同様、大きく変化してきています。「主体性」「自主性」を基盤とした「自己選択」「自己決定」の力、「他者との対話」「つながり」が求められてきています。時代が大きく変化していることを自覚し、子育て、教育にあたっていかなければなりません。

このような状況をふまえて、子どもたちの成長に携わっています。自分はどうしたいのか、どうなり

たいのか、そのためにどうするのか、自分のことを自分で考え、決めて活動していくことを求めています。その成長を、見守り、励まし、応援してあげてください。